

研究告知（オプトアウト）：星総合病院で乳癌検診を受けられる方へ

【はじめに】

当院は、乳癌の検診、診療、治療、緩和まで診療の大部分にわたって全県～南東北のトップを牽引する医療機関であり乳癌学会、乳癌検診学会、癌治療学会、外科学会、遺伝学会等多くの学会で先進的研究の発表を半世紀近く続けております。

その中であって乳癌検診部門においては、乳癌検診の画像（マンモグラフィーと乳房超音波検査）精度管理と乳癌発見の関係性に力を置いて研究を進めております。

マンモグラフィー検診は、乳癌による死亡者数を減らす検診として認められ日本全国で20数年前から導入され実施されてきております。しかし、そういったマンモグラフィーでも見落としがどうしても出てきていることが最近では問題となっており、そういった方々を早期に拾い上げることが肝要であるとの議論が全国で広がってきております。

【研究の課題】

マンモグラフィーにおける高濃度乳房被検者のリスク評価と代替検診についての研究

【研究代表者】

松寄正實

【共同研究者】

野水整、片方直人、岡野舞子、長塚美樹、後藤かおり

【研究期間】

2018年1月1日～2025年3月31日

【対象となる方】

2018年1月1日から2021年3月31日までに当院でマンモグラフィー検診を受診した被検者および乳房超音波健診を受診した被検者

【研究の意義】

マンモグラフィーにおける高濃度乳房は病変部分が隠れてしまうことが多いことからどうしても見落としが多いとの懸念が指摘されている。高濃度乳房は、乳癌の発生のリスクが高いことから、あらかじめ高濃度乳房被検者を高リスク群被験者として拾い上げることができれば、その方々に代替検診を勧めることが可能であると考えられる。

【研究の目的】

被験者データから高濃度乳房を形成する背景因子を探ることを目的とします。
(どのような方が、高濃度乳房であるのかについて、被験者の情報をもとに探ります。)

【研究の方法】

この研究は、公益財団法人星総合病院の倫理委員会の承認を受け実施するものです。
被験者の性別、身長・体重・体格指数、年齢、妊娠歴、授乳歴、月経歴、健診歴、既往歴、
家族歴とマンモグラフィ濃度とを対比させその関係性を調査します。

【個人情報の保護】

各個人のデータと乳房濃度との関係性を調べたデータは外部に漏洩することなく慎重に取り扱います。得られたデータは、個人が特定されるようなことのないように紐付し保存いたします。発表に際しても特段の注意を払い個人が特定されることのないようにいたします。なお、個々のデータの開示は致しませんが、発表用にまとめた統計データは、ご要望があれば開示いたしますのでお問合せください。

【オプトアウト告知】

本研究に際し、ご自分のデータあるいはご家族のデータを利用してほしくない場合は、下記の当病院検診センターまで 2021 年 9 月 30 日までにご連絡ください。

なお、当研究に対する研究費用は当院が負担します。また、被験者への謝金はありません。

==問い合わせ先==

963-8501 郡山市向河原町 159-1

公益財団法人 星総合病院 検診センター内 乳癌検診担当 松寄正實

電話（代表）024-983-5511